

ですから、人口圧力がなくなるような国土づくり、安全な国土というのを考えていかななくてはならないという思い。もう少し具体的に言いますと、今、畑村さんがおっしゃったようなアイデアもありますけど、国土管理として、私はある一点、一線で守るのではなくて、ゾーンで守ると。ゾーンで守るということは、国土の余裕が必要なのです。人々が住む場所もまたお借りしなければいけない。山の部分もそうだし、海の部分も、川の部分もそうなんですけれども、これから人口圧力が減っていくのだから、国家の統一意識として、これはみなさん方の国土交通省の役人だけじゃ絶対にできませんけれども、国家の目標としてゾーンでこの日本列島を守っていこうという方針を立てていけたらと思うのですけれどもね、それはこれから強調していきたいと思っていますけれども。

【畑村】 江戸時代が3000万でずっと300年続いて、それで、終戦の時の日本が約8000万なのですね、そして、今1億3000万近くになっているから、1945年以降、ものすごい増え方をしているのですね、だから、その少子化が問題だというけれども、本当は少子化は本当の意味での問題ではなく、経済が右肩上がりというのを前提にしたうえで問題です。ものすごく的確な所に軟着陸をする所に動き始めたのだというふうに見るのであれば、人口が減っていく事はとても望ましい良い事で、社会の中に余裕が出てくるのではないかと、そして、その余裕をきちんと正しく使おうという別の考え方があると思います。今日はこの国土の安全というので話をしていますが、最後まで引かかるのは、本当は年金の問題や、政府自身が持っている借財が大きすぎる分を誰がどう負担して、それを解消していくのかというそちらの問題だと思います。しかし、それよりは、他人任せで自分を楽な場所に置くだけの考え方でなくなり、自分にできるのは何だろうとか、社会とどう関わって、どれだけの事がやれるのだろうかというように、本当に真面目に考える方に変わっていかねばいけないのではないかと。とにかく僕はいろいろな意味で人のせいにしないというのがいちばん大事だと思っています。

【小出】 私も全くそのとおりだと思います。人口減少のお話で同感できるのは、ずっと右肩が上がっていくと、安全と同時に安心というのがあるのですが、安心の反対は不安とか心配ですけれども、日本人の不安とか心配というのは何かというと、現状から何か奪われるという事を想定すると急に不安になるわけです。安心というのは現状のままで通過して、さらに上になるという考えが、信仰のように精神風土としてあるのです。だから人口もこのまま減ってしまうとか、少子化で今後、日本はどうか。

10数年前にイギリスへ3年半ほど仕事でいたのですが、イギリスというのは変な国で、戦前、第二次大戦までは大英帝国で7つの海を支配して、ものすごく広いものを持っていて、第二次世界大戦がすんでから、せっかく戦争に勝ったのに全部もぎとられてしまったわけです。単なる、ヨーロッパの離れ小島の国になって、戦後のイギリスの歴史というのは奪われる歴史だったわけですけれども、彼らの精神というのはびくともしないのです。不安がなく結構安心していて、非常に精神が安定している。これは一体何なのだろうなという感じがします。

安全な制度とか設備をいろいろと作っても、それが心として安心かというのはいい構図じゃないと思います。それから日本人の安心の構造というのは、何かなくなると不安という条件反射のような不安や心配などがありますね。でも歴史というのは、伸びる時もあれば下がる時もあるというくらいのもつりて安心というものを捉えた方が毎日楽しいし、その方がいいのではないかと僕は思うのですが。竹村先生どうですかね。

【竹村】 先ほど楽屋で畑村先生とお話していたのですが、安心というのは、畑村先生のお言葉を借りると、先が見えないから不安だというお話をされました。非常に感心して聞いていたのですが、今はちょうど見られるのではないかと、僕たちはちょうど頂点にいるのではないかと。つまり過去1000年、ずっと人口が右肩上がりで来て、2005年で頂点に来て下がっていきます。大体GDPも、500兆の平成7年から9年あたりをピークにして大体横ばいです。私がずっと駆け上がってきた人生というのは、